

コルトレーンの記憶

ジャズは好きで、ある程度の枚数のCDを持っている。専用の棚にアーティストごとに整理してある。枚数の一位はマイルス・デイビスで二位をかなり離している。二位がビル・エバンス、三位と四位はほぼ同数でジョン・コルトレーンとソニー・ロリンズだ。

久しぶりにコルトレーンを聴きたくなって、バラード(Ballad)というアルバムをかけてみた。コルトレーンのサクソとマッコイ・タイナーのピアノが、溶け合うように流れる。

この曲を聴いていると、遠い昔にどこかで何回も聴いていたような気持ちになる。ウイスキーの水割りを作って一口飲んだところで記憶が蘇った。もう半世紀ほど前の遠い記憶である。

通っていた大学は都内の何カ所かにキャンパスが分散していたが、所属していた学部 of キャンパスが、渋谷から私鉄で二駅のところであり、キャンパスの中に学生寮もあった。この駅のすぐ近くによく行くスナックがあった。カウンターに六々七人、小さなテーブルと椅子の席が六人分ほどという細長い狭い店で、ほっそりした中年のママが一人をやっていた。

店の正確な名前は忘れたが、私たちは「クォーター」と呼んでいて、夜になると何人かでよく出かけた。学園闘争が数年前よりは少し静かになった時期ではあったが、都心ではデモや集会が繰り返され、大学の構内には立て看板が並んでいた。

貧乏学生だった私たちはこのスナックに出かけては、ママが作るナポリタンスパゲティをつまみながら、ボトルキープしたウイスキーのホワイトを水割りにして大事に飲んだものだった。そのママはコルトレーンが好きで、店内にいつも流れていた。レコード盤を宝物でも持つような手つきでプレーヤーにのせ、慎重に針を置く様子が印象的だった。

コルトレーンと水割りによって記憶が蘇った。店の中の様子やママの風貌までかなり鮮明に思い出せる。曲を聴きながら三杯目の水割りを飲んだあたりで、ほろ酔いの頭の中は「あの頃」へと飛んでしまつて、「今」に戻つてこれなくなっている。

バラード(Ballad)はまだ続いている。気分はたまらなくいい。けれど、だめだ。

これからは、水割りを飲みながらこの曲は聴かないようにしよう。